

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071101473		
法人名	のみやま有限会社		
事業所名	グループホームおさ		
所在地	福岡県福岡市南区日佐3-40-30 (電話) 092-588-5611		
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 1 日	評価結果確定日	平成 24 年 12 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

これまで親しんできた生活の継続を大切にし、家庭的な温かい雰囲気のなかでその人らしい生活ができる安らぎのあるホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 10 月 24 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、交通や買物の便が良好で、教育機関も近くにあり、四季を感じる場所に位置しており、ゆったりとして落ち着いた家族的雰囲気のある建物である。母体の医療機関が近距離にあり、認知症の患者の日々の生活のお手伝いをしたい、という開設者の気持ちから、平成16年にオープンした。日頃の健康管理や24時間の緊急時対応を行うなど、医療面の体制は行き届いている。また高齢者の尊厳、これまで親しんできた生活の継続を大切にしながら、個々の利用者の日常の支援を、職員が一丸となって心をこめて行っている。地域との交流の円滑化に気を配り、より密着した良好な関係を保てるように努めている。職員が働きやすい現場であり続けるよう、現場では絶えず試行錯誤を重ね、一層の充実を追求している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にいる喜びを感じる家庭（地域・社会・スタッフ共に住む同志として）」を理念に揚げ、地域住民との交流を大切にしたい取り組みを行っている。	開設当初職員で作上げた地域密着型の視点での事業所独自の理念があり、施設内にも掲示している。この理念の実践に向けて、会議の時や日常の時々で確認をしながら、全職員が意識的に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として、夏祭りなどの地域行事への参加や近隣の中学校の職場体験を受け入れるなど、地域との交流を図っている。又、地域での買物、散歩等を日常生活に取り入れている。	町内会・自治会に加入しており、事業所便りを地域に回覧したり、地域活動・廃品回収への協力、夏祭り・敬老会等の地域行事や近隣の幼稚園の運動会への参加、学生の体験学習の受け入れなどを行ったり、日舞等の発表の場に施設を提供する等行っている。また、近隣の方からおすそ分けをいただくなどして、親しい良好な関係が築かれ継続されている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時介護相談を受け入れており、地域住民の介護の不安や負担軽減につながるアドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、ホームの状況や活動内容・行事を報告している。又、参加者からの意見や情報を取り入れサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回の会議開催は軌道に乗っており、利用者家族・市および包括職員・地域住民代表・福祉事業関係者らが参加しているが利用者の参加はない。利用者やサービスの実情の報告、評価に対する取組状況の話し合いの他、最近では利用者家族への通信の有効活用に関する事など、サービス向上に結びつく意見を協議する場として定着している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例やケアの取り組み方など、少しでも疑問を感じたら、市の担当者に相談している。	市関係者、地域包括支援センターとは運営推進会議や、日常のやり取り以外にも経営に関する事など、些細な事も質問したり、認知症サポーターの介護教室を受託したり、と親交を図っており、協力関係は築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で「身体拘束ゼロの手引き」を利用して、スタッフ一同で身体拘束禁止の認識を高めている。 玄関・居室は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。	日中は居室・玄関とも施錠はしていない。玄関にはセンサーを設置している。業者の出入りの際に外出する事などが無いよう、職員は改めて利用者の外出傾向を把握、注意を徹底している。身体拘束に関する指針、マニュアルは完備されている。全職員を対象とした内部研修を実施、記録・報告書等もまとめられており、職員の理解もある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した管理者や職員の研修報告書を参考に、スタッフ会議で虐待防止について理解し、勉強している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で成年後見制度についての出前講座をしてもらい、地域住民・家族・職員ともに学んでいる。	制度に関しては、必要性を事業所側が判断した場合やお尋ねがあった場合に、利用者・家族に説明している。運営推進会議や家族会でも取り上げる事もある。現在制度利用中の方も居られる。研修に参加した職員の報告書とその伝達研修の記録も残され、十分活用されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個別に時間をとって説明している。介護報酬の改定や制度改正などにより利用料が増加する場合は説明し書面で同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時やケアプラン作成時など、本人及びご家族の希望を伺っている。又、ご家族には契約時に市役所、国保連など第三者機関に苦情相談窓口がある事を知らせている。	利用者は日頃の会話より管理者や職員に随時意見や思いを伝えられており、家族に対しても、年1回家族会を定例開催し、意見箱を設置している。また苦情の申出先の説明も繰り返し行っている。家族からは、面会時に職員に口頭で話される事が多く、事業所は貴重な意見と受け止め、随時利用者・家族の意見や思いを運営に反映できるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で職員の意見・要望を聴くようにしている。又、その都度、時間をとり、話を聴くようにしている。	管理者は、随時、ミーティングや個人懇談を通して、職員が意見を言いやすい雰囲気への工夫、職員のアイディアの取り入れ、楽しんで仕事に従事できるような配慮等を行っている。異動や離職は最小限に抑えており、職員の交替の引継には必要に応じて十分期間を確保する。今回の自己評価も全員で話し合っ取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援体制があり、休日などの勤務希望も十分聞き入れ支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、資格や経験など問わず、介護に意欲的な職員を募集している。 職員の自己実現のための相談やアドバイスも行い休日等も考慮している。	採用選考時には意欲があり、高齢者が好きで、排泄などのお世話に抵抗のない事を基準とし、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。また個人のレベルアップ・上級資格取得の支援にも前向きで、資料を提供したり勤務調整したりするなど、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各研修にて勉強しスタッフ会議で報告している。専門家による出前講座などで地域の方やご家族にも参加いただいている。	人権に関する外部研修に参加した職員からの伝達研修もなされ、その記録・報告書を保管しており、職員は認識のもと業務にあっている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にて職員が受講できるようにしている。順次、管理者研修、実践者研修を経験に応じて受けている。ホーム内でもベテランの職員が指導にあたり内部研修をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加により、職員は他施設の職員との交流が出来るようにしている。他グループホームの運営推進会議に出席したり招いたりして学習している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で生活状態を把握し本人の希望や不安を理解するようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族に来ていただき、困っている事や不安・要望を聞きサービスに活かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	サービス導入前に5日間の体験入居をして頂 き、導入段階で事業所として必要な支援を見 極めサービスの利用調整を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	個々の個性や能力の発揮に努め、暮らし方を 尊重しつつ、ともに時間を過ごし人として学 び教えあい支えあっていける関係を築いてい けるよう関わっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	本人の生活を支援いくためにご家族と職員が 対等な関係を築く事はもちろん、本人とご家 族の関係を考慮しながら今後も良い関係を築 き続けていけるよう支援に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	今までの関係が途絶えないよう個々人対応に て、行きつけの美容院などを利用してもらっ たり、大切な方との外出や、職員の付き添い での外出支援を行っている。	アセスメントにて情報を収集し、一人ひとり のつながりを大事にしている。利用者が以前 住んでいた場所、思い出のある場所・馴染 みの美容室などへ外出したり、手紙や電話の 支援を行っている。職員の支援にてより多く の場へ出向く事ができている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係の理解に努め、個々が孤立せ ず同じ場所で支えあって日々の暮らしを共に 楽しく過ごせるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	サービスの利用終了後でも経過見守りで面会 に行くなどしている。又、住み替えの利用者 に対しては、移住先の関係者へ本人の状況な どを詳しく伝え、質問に対しては今までのケ アの工夫も交えて伝えるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で利用者の思いや希望・意見等小さなことでも把握するように努め、ご家族に伝えたり、職員同士で連携をとりながら情報収集に努めている。記録に残す事はもちろん、各担当者に伝えたりスタッフ会議で情報の共有、対応の確認を行っている。	全職員は日常の関わりの中で利用者信頼関係を構築していき、思いや考えを上手く引き出している。利用者一人ひとりの生活のリズムや趣味・特技をヒヤリングして、把握できるように努めている。担当を持ってモニタリングをし、意思疎通が困難な方への配慮を行い、職員間の情報の共有に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や他事業所より情報提供していただきフェースシートに記録しスタッフ全員が把握出来るようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの中で本人の状況を総合的に把握しながら、本人のできる事や理解力を発見できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人やご家族の要望や変化に合わせて見直しを行っており、その都度カンファレンスで話し合いをしている。	ユニットごとの職員が中心となり、家族や主治医と連携し情報を共有して、利用者の意向を汲み、寄り添う計画書ができています。個別ケアもできるように配慮されています。見直しは6ヶ月に1回を基本に行い家族に報告、変化がある時は内容を検討したうえで作成している。遠方の家族へは郵送して対応、署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で知りえた事実や気づきを具体的に記録しファイルに綴じている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば本人が入院した場合の身の回りの世話等、既存概念に囚われずに、その時々状況に応じて柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署に来ていただき消防訓練をしたり、ボランティアによる日舞や演劇の発表の場を提供し利用者が安心して楽しめる暮らしを支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人やご家族が希望する医療機関、又は事業所の協力病院になっている。かかりつけ医との連絡も密にとって医療面のアドバイスをいただいている。	利用者の多くは本人・家族の承諾のもと、かかりつけ医を母体となる身近な内科医へ変更している。往診も頻回にあり、健康管理や状態把握は万全である。また、他科受診の際も意見書を速やかに提出できるよう連携している。他科受診の付き添いに関しては職員が対応している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、異常の早期発見に努めている。変化などに気付いた場合、看護職に報告し適切な医療につなげている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐ為に、医師や相談員と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を踏まえ医師と職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるような取り組みを行っている。終末期には必要であれば訪問看護を依頼する場合もある。	契約書に明記しており、利用開始前に家族へ説明している。かかりつけ医、家族と話し合い、最期をどう過ごすかを確認している。現在終末期の方を受け入れており、訪問看護の支援を毎日利用している。家族からの強い希望により、事業所が対応し得る最大のケアを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員に応急手当の勉強会に参加してもらい急変時の対応が出来るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いで避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。又、運営推進会議で地域の方やご家族の参加を呼びかけている。	マニュアルに基づき、年2回避難訓練を実施、うち1回は消防署立ち合いのもと、避難誘導や消火器の使用法等の確認・指導を受けている。他に、消防設備のメンテナンス業者からの通報装置の使用法の説明や、地域住民の参加をお願いしている。非常用備品は1・2階ともに準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まず本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。	プライバシーの保護、個人情報の取扱いに関して、内外部での研修を受けて、細心の注意を払っている。職員は利用者一人ひとりの思いや行動を察知し、常に利用者目線で物事を考え支援にあたる努力をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすいような声かけをしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション・様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、本人にあった服を選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりも大切にしている。	自然体でテーブルを囲み、なじみやすい雰囲気の中、職員も利用者と同じテーブルにて食事を摂り、食事の準備・片付けを利用者とともに。みんなでホットプレートで囲む取組もある。利用者が育てている野菜を収穫して食材としている。嗜好調査を利用開始時や随時行って献立に反映させている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、職員全員が知識や意志を持ち、1日全体を通して必要な食事や水分を取れるように支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度の歯科衛生士による口腔ケアや、毎食後の口腔ケアの徹底をしており、介助の必要人は職員が個人に合わせた援助を行っている。夜間は義歯を預かり、消毒し衛生に気を付けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた声かけ・介助を行い、時間の間隔も職員が把握し、トイレに誘導している。	利用者一人ひとりのサインを見逃さないように見守りをし、排泄チェック表の確認を行い、パターンを予測するようにしている。定時の声かけ・誘導を行い、失禁等の際は慌てずにさりげなく対応、支援を行っている。できる限りオムツに頼らないように本人の尿意・便意を促す努力をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便チェックを行っており、食物繊維の多い食事にも気をつけている。出来るだけ自然排便を促せるよう工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	臨機応変に個人に合わせた時間帯に入浴出来るよう準備している。	通常は午後からの入浴としているが、24時間シャワー浴の対応が可能である。入浴が楽しめるように歌を歌ったり、菖蒲湯やゆず湯を用意したりして支援し、入浴拒否がある際は職員を交代したり、時間をずらすなどして随時対応する。一人ひとりの意向に耳を傾けるように努めており、外部のお風呂への外出支援も行っている。	毎日いつでも入浴ができるような取り組みを期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが必要な休息や睡眠がとれるよう、本人の生活習慣や本人の活動状況を職員が把握し支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐ為職員が管理している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、できる力を最大限活かし自分らしく暮らせるよう、一人ひとりにあった役割や楽しみ、気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合った外出（買物、散歩、観劇等）を行っている。地域の行事等にも参加している。	天候に左右されるが、体調を確認しながら、ほぼ毎日外出するように努めている。活動範囲が広く、遠方（半径30キロ圏内や片道1時間）への外出もあり、行き先の無料送迎車を活用する工夫もしている。イベント情報を収集し、利用者と職員がともに楽しめるように努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃預かっているお金で、買物時に自分で支払ってもらったり、少額のお金は所持してもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は制限せず自由に交流をしてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は居心地良く過ごせるようにソファを置いたり、ちょっとしたスペースに椅子を置いてくつろげるような工夫をしている。	飾りや置物は最小限にとどめ、食堂内も孤立しないような距離感を保っている。タペストリーを飾って季節感を醸し出している。掃除も行き届いていて、トイレも臭いがなく清潔である。光の強さ、テレビの音量の調節にも気を遣っている。トイレや浴室、居室がわかるよう、表示に工夫をして混乱しないような配慮が見られる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同志で過ごせるように食事の時、同じテーブルに座ってもらったりソファやイスで話せるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切にしながら居心地良く安心して過ごせる環境作りをしている。馴染みのものを活かしてその人らしく暮らせる部屋にしている。	居室内は一人ひとりの馴染みの物が持ち込まれている（ベッドは個人の持ち込み、写真や筆筒、テーブルなどの他、仏壇、畳、過去には遺骨まで）。居室は一人ひとりの日常生活動作に合わせた、過ごしやすい雰囲気を大事にしている。窓からの光も射しており、朝陽を感じ取る事ができる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を把握し自分の力を活かして動けるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」（地域、社会、スタッフ共に住む同志として）を理念にあげ地域住民として交流を図りながら理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	全利用者が町内会に加入しており、可能な限り地域の行事に参加している。又、町内会長や民生委員には随時訪問して頂いている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の事業所や住民の方、家族を招き出前講座（第一薬課大学教授）で認知症の勉強会をやったり、ヘルパー研修の受け入れや地域の中学生の職場体験を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回運営会議では写真と共に行事内容や評価への取り組み内容を説明している。又、サービスに生かせるよう情報や意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や分からない事があればその都度関係機関に連絡しアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束関連の外部及び内部研修（代表者及び全ての職員の参加）を行い、身体拘束は行わないよう抑制廃止委員会を設置している。玄関の施錠や居室にも鍵をかけないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修にも参加し、スタッフ会議で報告を行いスタッフ全員が虐待防止を周知出来るようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営会議でNPO法人あいあいサポート（司法書士）に来て頂き家族、職員を含め他事業所の方々と共に勉強会を行い理解を深めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その度十分な説明を行っている。利用料の変更や加算がある時は説明または文書にて通知し、同意書にサイン押印して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時やケアプラン作成時に問いかけ、意見をいい易い雰囲気作りに努めている。意見や要望は可能な限りサービスに反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で意見を聞いている。又、個別に話しを聞く事もある。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各人のレベルアップの為に研修参加に努めている。又、希望休を多く取り入れリフレッシュ出来るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用にあたっては性別、年齢を理由を問わず意欲あるスタッフを募集している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本的人権が尊重されるよう研修に参加し知識を深め、スタッフ全体の会議で研修内容を確認している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が質の向上をしていけるよう外部検収に参加しスキルアップの為、年ごとに研修内容を考え取り組んでいる。又、資格取得のアドバイスを行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの運営会議に参加したり、当事業所の会議に来て頂いて交流を図っている。管理者も南区「ささえあいの会」に参加し情報収集している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族やケアマネージャーから情報収集を行い、入居前面接では生活状況や不安、好きな事、趣味等を伺い、本人が安心して生活出来るように支援している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より不安、要望等を伺い安心して生活出来るよう支援し信頼関係を築くよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で本人・家族の要望を聞き、必要とする支援内容を話し合いケアプランに反映し、その方に合った支援をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり入浴介助での一对一の会話で信頼関係を築き、家族同様に感じて頂けるよう努めている。又、得意な事が発揮できるような機会を作っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時や毎月の通信にて本人の状態や状況を伝えている。又、必要連絡事項の際こまめに連絡し近況報告している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望に合わせて個人レクを行ったり、外に出掛けたり、知人に手紙を送ったりしている。馴染みの方が面会に来られた際はスタッフが必要に応じ間に入りよい関係が途切れないよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにし、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の受け入れ先には現状を細かく伝え転居によるダメージが少なくなるように努めている。退所後は他施設に移られた場合は面会に行き状況や家族の様子を伺うなど連絡を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族やケアマネージャーから以前の様子や趣味等の情報収集をするとともに、日常生活や会話からも意向を汲み取るよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の馴染みのものを持ち込んで頂いたり、本人や家族から頂いた情報を元に、これまでの生活で築かれた環境や状況を把握し、本人が安心して暮らしていけるように支援している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の日々の心身状況による生活リズム把握し支援している。又、出来る事、理解出来る事を見つけ生活への意欲が高まるような個別にレクを取り入れている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を元に本人がより良く生活していけるよう全スタッフにて日々の気付きや意見を出し合い結果を元に介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、入浴、排泄、日常生活状況等の記録はもとより、行動、言動等で日常と異なる場面があった場合は特記事項にわかりやすく記録している。又、勤務に入る前には申し送りをを行い状況確認をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で必要な事（例えば食事時間や突発的な病院付き添いなど）に対し本人やご家族が安心できるように柔軟な対応に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を定期的に開き地域の民生委員や地域包括支援センターの職員の参加をお願いしており、周囲の情報や資源に関する情報を交換し、他の施設の勉強会にスタッフが出席したりと協力関係を築いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や、ご家族が希望するかかりつけ医となっており受診や通院はご希望を伺って調整しながら対応している。例えば、白内障の場合には遠距離のご家族とも密に連絡をとりご本人も確認して日帰り手術にスタッフが同行、付き添いをしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持つスタッフが常勤しており、又協力医療機関より毎月看護師検診に来て頂いて常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援、指示が介護スタッフへ連絡・申し送りされる体制を取っている。変化についても直ちに看護師に報告し適切な医療に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人のケアに関する情報を医療機関に提供して医師やご家族とも密に連絡を取り合いご本人の病状変化を確認している。又、早期に退院可能となるよう主治医や相談員からアドバイスを頂いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族と重度化した場合やホームで終末期を迎える可能性について早い段階から話し合いを行っている。又、ホームの連携協力病院とも連絡を取り合える体制を日頃より築き、スタッフはかかりつけ医や看護職等の医療職の専門的知識・指示を仰ぎ、必要時には訪問看護サービスも利用しチームで支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒による怪我や骨折、誤嚥、意識不明等の対処方法について救急訓練や応急手当の方法の研修を受けている。又、常にマニュアルを各ケースについて準備しており緊急連絡網も含めて全スタッフに周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の指導の下利用者と共に消火、避難訓練を行っており、近隣の協力も自治会でお願いしたり、運営推進会議でご協力頂けるよう呼びかけている。又、避難先となる公民館の地図を事務室のよく見える場所に掲示している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や介護度を考えて自分で出来る事をして頂く際の声掛けに気を配っている。洗い物の手伝いをして頂く際や洗濯干しを一緒にする際などにたとえきちんと出来ていなくても有難うございますと感謝の言葉かけを行い、本人のプライドを傷つけないようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けを行い難聴の方には解り易くはっきりと耳元で伝えたり、本人が決められる事をスタッフが遮ることなく、例えば今日は買い物一緒に行き何か欲しい物が有るのかどうか、何をかう必要があるのかどうか本人が決められるよう心かけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調やペースを大切に、例えばラジオ体操をする時間に「もう休みたい」という方には午後に歩行や運動の声掛けをするなど体調や安全に配慮しながら柔軟な対応をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に洗面、整容のお手伝いをして更衣もその方に合わせたスタイルを充分考慮しながら洋服を一着に選び又、季節ごとに新しい服が必要ないか等考えて家族にも入れ替えの相談をしている。訪問理容も利用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物にご一緒する時や会話をする際に「何が食べたいですか」と伺い本人の希望に添うようにしている。又、催時（誕生会等）で外から食事を取る際にもパンフレットを見ながら楽しくメニューを決めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分チェック表を作成し個人に合わせた食事の量や水分を提供し、体重の増減に合わせコントロールを行っている。又、体調に合わせて食べ易く工夫した食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯洗浄し歯間ブラシを使った手入れ、個々に合わせ行っている。夜間は義歯を預かり洗浄し清潔を保っている。週に一度は歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェック表を作り排泄パターンを把握しさりげなくトイレ誘導している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として日常生活での運動を取り入れている。又、水分量も多く取って頂けるよう声掛け行っていると共に食事内容にも気を付けている。排便チェック表で確認し便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々の状態に合わせて毎日好きな時間に入浴をして頂きリラックス出来るよう心掛けている。又、入浴拒否や入浴出来ない利用者には清拭や足浴を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムがあり本人にとって自然なリズムで安眠出来るよう外気浴や散歩等を行い日中の活動を促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルにまとめ、全職員が分かるようにしている。又、処方、用量の変更があった場合は申し送り及び連絡ノートを活用し徹底している。常に協力医療機関との連携を図っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事、好きな事を把握し得意分野での手伝いの声掛けを行い役割を持って生活出来る喜びを感じて頂きながら支援している。自宅にいる時と同じ様に個人で嗜好品も楽しめるようリラックス出来る支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に合わせ外気浴、散歩、ドライブ、外泊等各人の意向を組みご家族の協力の下工夫しながら支援している。又、地域での行事にも地域の方々の協力で参加出来るよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしている事を伝えたい物、必要な物があれば職員と一緒に買い物に行ったり、買物を代行したりしている。ご自分でお金を手元に持っている方には自分の財布から買い物に行った際には支払う様な機会も作っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、親しい方々との連絡が途絶える事のない様いつでも手紙、ハガキを準備しお渡ししている。又、希望に沿えるように電話いつでもかける事が出来る。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関やベランダには四季折々の花を植えている。テレビの音や換気や消臭にも気を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関にも椅子やソファを設けて仲の良い利用者同士のくつろぎの場を設けている。又、ソファや椅子の配置転換で人の気配を感じながらも独りになれる居場所を確保出来る様にしている。玄関には椅子を置き一人で過ごしたり仲の良い人達同士やスタッフと話したり出来るスペースを設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた、見慣れた、思い入れのある本人の慣れ親しんでいた物を持参して頂き安全面、安全性にも考慮し各部屋には配置している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体に応じて安心して生活出来る様にトイレ、浴室、廊下等手すりを付けて自力での歩行、立位が出来る環境を整えている。外出時は玄関のスロープを使用し安全に努めている。館内はバリアフリーで車椅子の生活の方も安心して移動出来る様にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない